

研究課題名：多職種連携医療における動画を用いた口腔内評価の有効性の検証

研究者名：鈴木啓之<sup>1</sup>，日高玲奈<sup>2</sup>，中川量晴<sup>3</sup>，戸原 玄<sup>3</sup>，水口俊介<sup>1</sup>，古屋純一<sup>4</sup>

所属：1. 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野

2. 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 地域・福祉口腔機能管理学  
分野

3. 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーショ  
ン学分野

4. 昭和大学歯学部 高齢者歯科学講座

#### 【緒言】

医科歯科連携においては、マンパワーの観点から、限られた医療資源を有効に活用できるようなシステムの確立が必要とされていると考えられる。そこで我々は、医療の現場においても導入が進んでいるスマートデバイスを利用した口腔内評価の有効性の検討を目的として、ベッドサイドでの口腔環境評価とタブレットにより撮影した口腔内動画での口腔環境評価との比較研究をもとに多職種が利用可能な口腔内動画撮影マニュアルを作成し、その有効性を検討した。本研究は東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の承認を受けて行った（承認番号 D2016-077）。

#### 【方法】

スマートデバイスを利用した口腔内評価研究は2020年7月から2022年1月までの間に、栄養管理目的で東京医科歯科大学病院 Nutrition Support Team (NST)へ依頼となった入院患者のうちデータに不備のない57名（男性：43名，女性14名，平均年齢69.2±13.8歳）を対象に，Oral Health Assessment Tool(OHAT)に基づく，ベッドサイドにおける口腔環境評価（OHAT-B），タブレット端末を用いて歯科医師が撮影した口腔内動画による口腔環境評価（OHAT-VD）の一致度を検討するとともに，その結果から作成した口腔内動画撮影マニュアルに基づき管理栄養士が撮影した口腔内動画による口腔環境評価の有効性を評価するために，2022年2月から3月までの間に，東京医科歯科大学病院 NSTへ依頼となった入院患者5名（男性3名，女性2名，平均年齢67.0±6.0歳）を対象として，OHAT-Bと口腔内動画撮影マニュアルに基づき管理栄養士がタブレット端末を用いて撮影した口腔内動画による口腔環境評価（OHAT-VNm）の一致度を検討した。

#### 【結果】

OHAT-B 総合点は平均 4.3±2.6，中央値 4.0，OHAT-VD 総合点は平均 4.3±2.4，中央 4.0 であり，OHAT-B と OHAT-V の級内相関係数は，0.872（0.793-0.923）であった。また，OHAT-B と OHAT-VNm の下位項目における一致率はそれぞれ，口唇が100%，舌が80%，歯肉・粘膜が80%，唾液が100%，残存歯が100%，義歯が100%，口腔清掃が100%，疼痛が100%であった。

#### 【考察】

撮影条件や必要な撮影部位を明確にした口腔内動画撮影マニュアルにより，口腔環境評価が可能な動画を撮影可能であることが示唆され，多職種に対してマニュアルを普及させることにより，将来的な遠隔口腔評価システムを確立に繋がる可能性が示唆された。